



Topics ~循環器診療に役立つ、最新の話~

冠動脈石灰化病変に新たなデバイス。「削る」から「砕く」へ

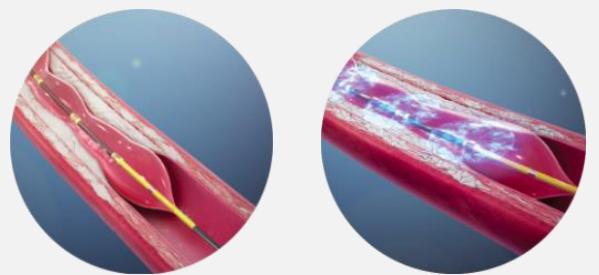
冠動脈の石灰化病変によるカテーテル治療に新しいデバイスが導入されました。

冠動脈の高度石灰化病変は、死亡/心筋梗塞/標的血管再血行再建/ステント血栓症などのイベントの発生率が高くなります。一般的なバルーンでは石灰化病変が拡張不良となるため、カッティングバルーンから始まり現在ではロータブレードやダイヤモンドバックという高度回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルで血管の石灰化を「削る」ことによってイベントの発生率を下げる事が可能になり、使用する施設も一般的になりつつあります。高度回転に伴い、蛇行した血管で穿孔してしまうリスクもあり熟練した医師によるカテーテル治療となっております。



今回、導入されたIVLカテーテル（SHOCKWAVE）は、腎結石の治療を応用した石灰化を「砕く」治療となっております。バルーンの中にある破砕術用のエミッターアレイによって音圧波が生じ、内膜および中膜にある石灰化を選択的に破砕します。軟組織に対しては無害であり血管構造は保たれ、手で触れても傷つかないほどです。バルーンによる操作であるため煩雑でなく、合併症のリスクも低く行えます。

当院では6月より導入されており、最新のデバイスを駆使して、低侵襲治療を提供していきます。今後も積極的に虚血性心疾患の患者様を受け入れて参ります。



文責 増田 暉

スタッフ紹介 Vol.14



増田 暉

医師

循環器内科 科長

2018年 日本大学卒

今年の4月より当院に赴任しました。

大学時代は、演劇部に所属してました。熱中しすぎて何度も留年の危機に戦々恐々しつつスポットライトに向かって大声で叫んでいました。一時期、「泣く」演技にハマってしまい、実家で夜中に演劇のDVDを観ながらマネをしていたところ、母親に棒立ちでみられたのは恥ずかしい思い出です。

